国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

平治物語絵巻

全

亥
204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

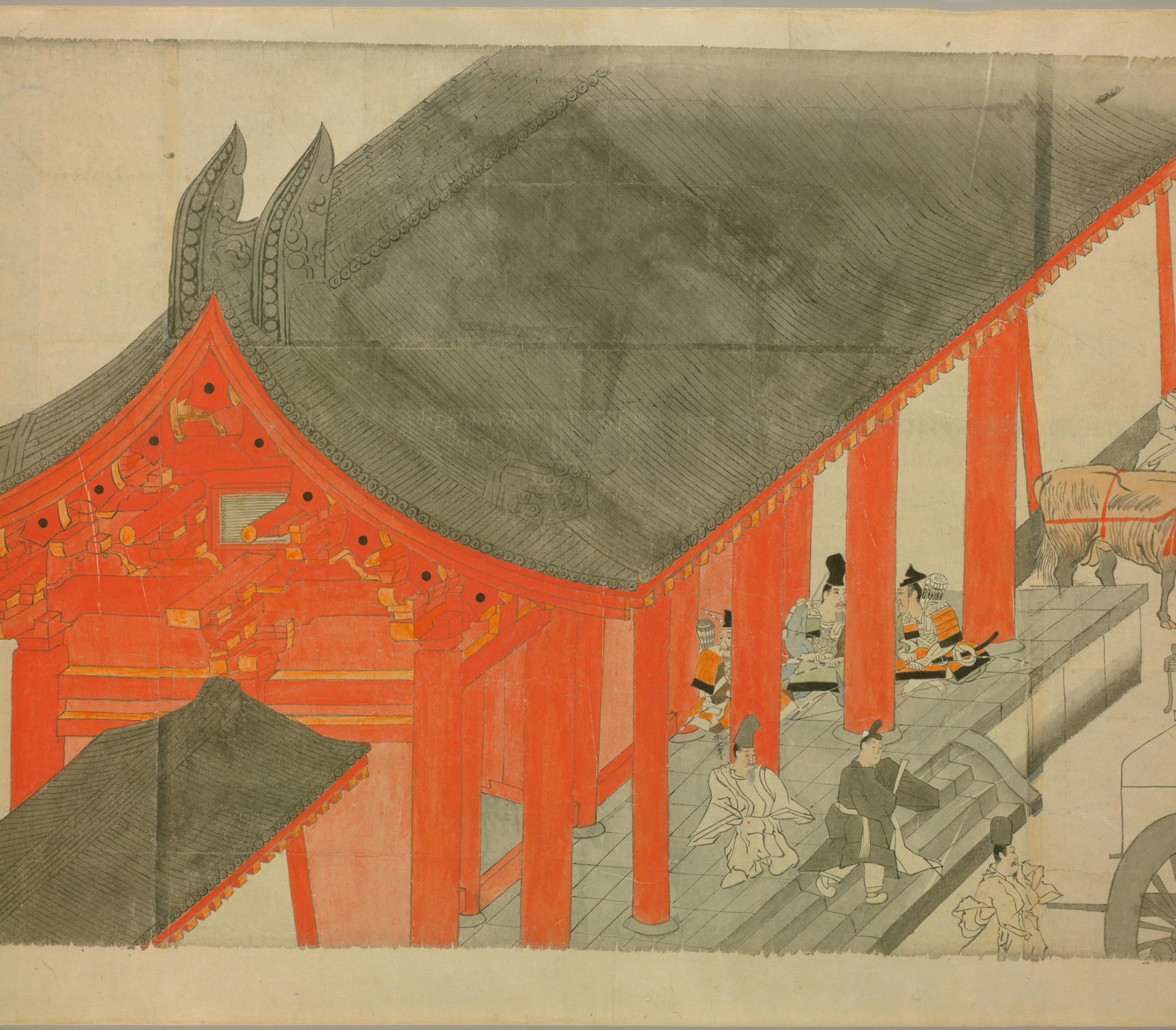
国立国会図書館　　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204



国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

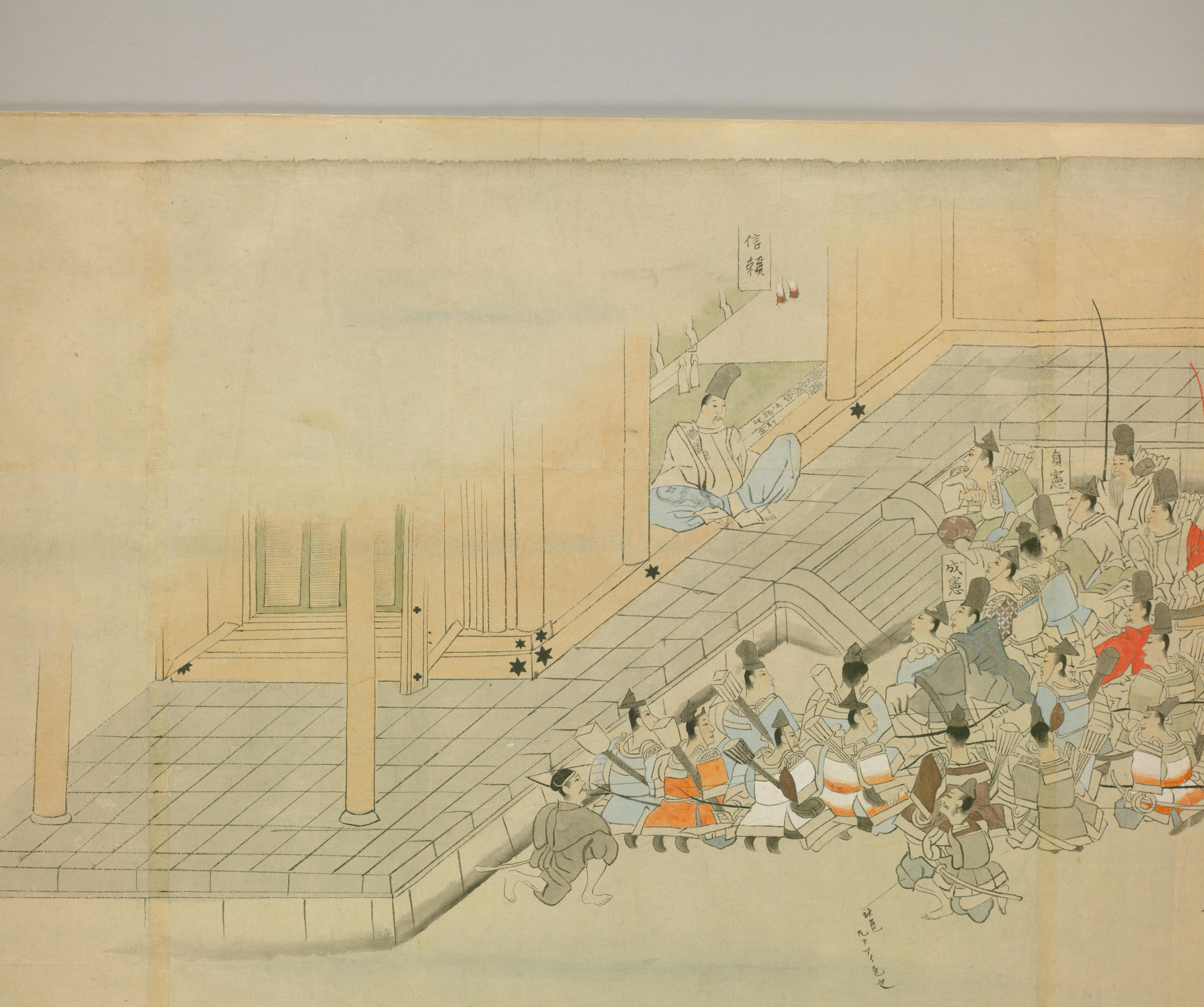
平康忠首

源泥

大江家仲首

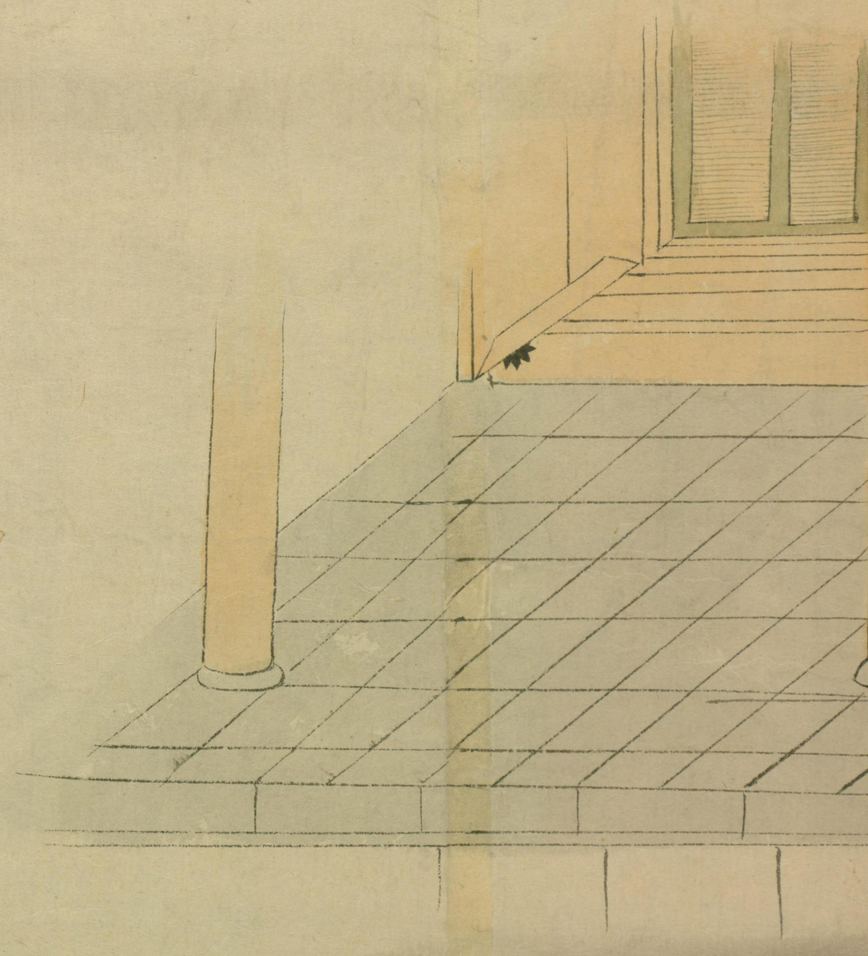
国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204



国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

信西入南家傳士なるうゑ高階経敏の子に
あるうゑ大業をもとめうる事ハ
儒官ふたもなき事也代々ときく舟
あさゐもりとをもふ三事そね七
雑よなるの中ゑ者と者う上達部よ
然礼を今ハ寿命なとの思ふ外十日ひろ



国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

儒官ふもなく多能を代あやとく舟
あさ旅さこもりとを子ともい三軍そのね七
雑よなるの中ありと申上達部よ
無礼と多今ハ寿命なとこのもう計十日ひろ
のみ都を迎也〳〵京良方へおもむくと聞
志の伊賀ま境ハ乃山中ふく自害して仕里
うたはれるを者ども出雲前司光保の郎木
多りく堀也〳〵首を切て村来

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

十六日信西の息光保の神泉苑より帰来す
申をはり信頼以下同車あるべき賞拾ふ

十七日源判官資経以下官人三条河原より
て信西の首持参る大路をわたし西獄門の
おもてに木よりかくる見る人夢のこゝちぞする
させる罪科なきを斬ふびんなり獄門よりかへすべし
かゝる乱逆の世の宿業なり

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

て信西の首ばらの事 すべて大路をわたし
おわもちよりて本よりくに見を見る人夢のごとし
させ京 都放 かも あ 獄門 なかあらん
かと乃 罪科 何事 お世乃宿 悪
現 報 見 悪 ともも ふたのもあし

光秦

源判官資經

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

源判官資經

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

惟方

信頼

光泰

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

惟方

信頼

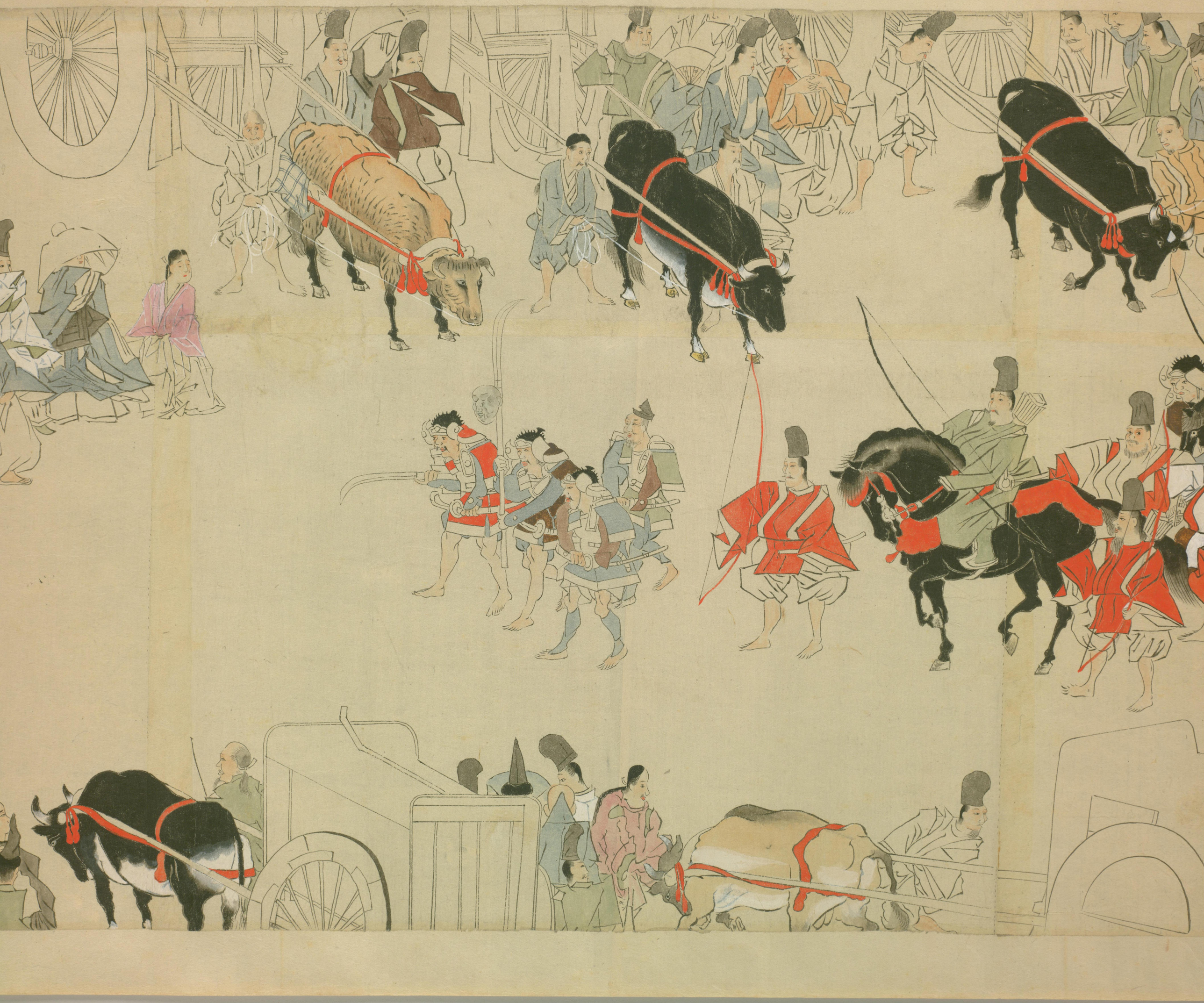
光秦

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

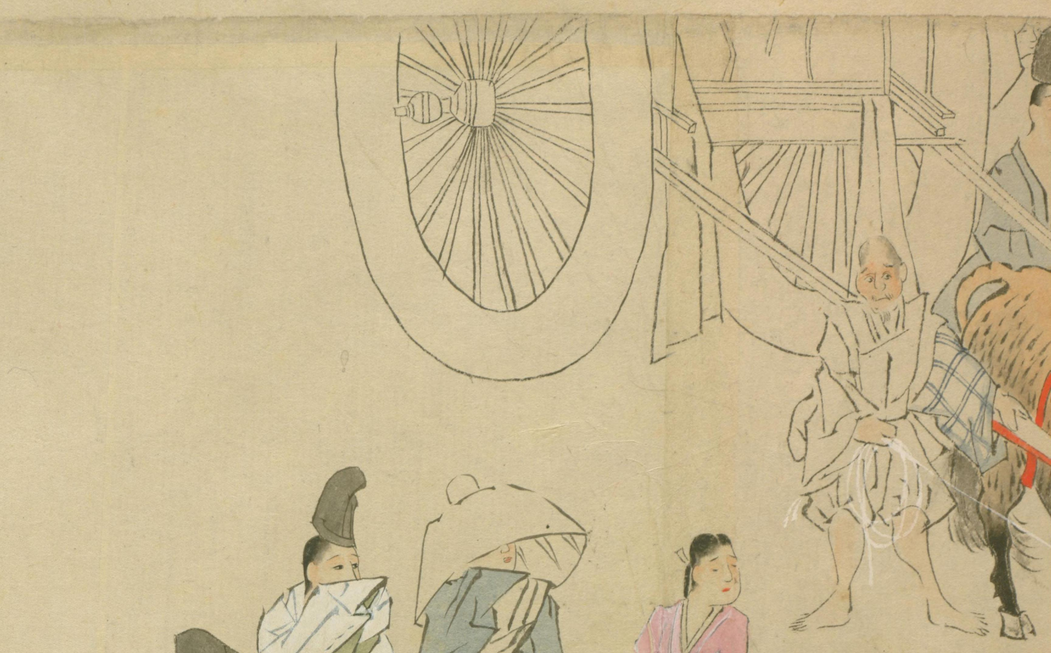
国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204



国立国会図書館　　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204



国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

平治物語繪詞

白妙の雪とし紛ふ梅が枝に鶯鳴き來啼かた

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号 亥-204

平治物語繪詞

白妙の雪さし紛ふ梅が枝に鶯初來啼かた
足引の山の上み松多くたてる空高う月
のきし晨りるうやまあらい萩女郎花かる
かや尾花生乱茂りたる野辺み暁近たに妻
戀ふ小男鹿のるてう顏かとちうはしきを
おうかぬ何里の方よりのみやん長れあ
文ひ物申て物思ひかねみのい居たるり今の世み
なんと昔の上手ともはやうちふ人ふたる里とおゆひ折箕へらるい繪
てもも一師らの人競元の臺に掲ゆもう黄金白かね輝ける玩ひ物みなんとまる然る類元に
ふはりもして見のい我人の心をあぐきむ
ハあら執行はる故事きもの、ふね國の爲に眞弓押張り氷ふむ
劔太刀しかさし大御軍の先にたちて足
とれ馬み打騎り従者ともあまた引里命
を惜まず勇み進むかさちとも活るを見る
かこと摸しといめたるを後の世み傳へも
て來て此事はのいりし莫あり
りしと考へ明らめ書のうへみ見し疑元の

て
り
と
繪
み
る
な
る
月
は
う
り
り
智
の
神
數
限
り
よ
な
う
へ
手
の
海
の
す
て
と
記
み
稀
稀

来
て
し
と
考へ明らめ書のうへみ見
ま て 始めて雲も晴わり
を見たる心ちせ ゐる、へ
しを思ひなるらんかし世
てへ昔有し繪も書も多く
のならねみか、りて焼亡
もしよれす況て此頃ハ異
外まてもていにたる物も
多へ今ゟ残り傳はれるも
なりゆきたんなる

此事はかゝ、其ま
考へ明らめ書のうへみ見
ま て 始めて雲も晴わり
を見たる心ちせ ゐる、へ
しを思ひなるらんかし世
てへ昔有し繪も書も多く
のならねみか、りて焼亡
もしよれす況て此頃ハ異
外まてもていにたる物も
多へ今ゟ残り傳はれるも
なりゆきたんなる

此事はかゝ、其ま
し疑ひのか兎ゐ
てやかいかゝ
時はり時
ハ迎俱津
たる
こ
邦人の
商人とも
り歩行れ
少なかよ
ハ世かよ

これを遠く隔てきるものにして今殘
竹纔かふ三四巻に過す按ふにも
物語ゟすら傳ゟる保元
平治物語の繪巻は抔のあ
ま り 續きて平治語全部を畫
す 一時世
ハ世ふい
一斑ふり
日といふ
中宮權大
源義朝を
の御所三
頼卿自ら
り て 申さ
蒙り候れ

これを遠く隔てきるものにして今殘
竹纔かふ三四巻に過す按ふにも
物語ゟすら傳ゟる保元
平治物語の繪巻は抔のあ
ま り 續きて平治語全部を畫
す 一時世
ハ世ふい
一斑ふり
日といふ
中宮權大
源義朝を
の御所三
頼卿自ら
り て 申さ
蒙り候れ

平治物語
年ハ平
夜の子
夫右兵
大将と
條殿へ
馬に騎
れ寄せ
なかゝ南殿の御庭ゟ打い
やう年來御いとをしみを
川ゐに信西入道の讒言ふよりて
信頼討れ

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

仁馬に騎れる
なかゝ南殿の御庭ゐ打
やう年來御いとをしみを
信西入道の讒言ふりて
すへれ由承り候の間暫の
に吾嬬の方へ罷下り候な
ん上皇ゝ大いゐ驚かせ給
者か信頼を失ふへかんな
いまいらんか為
れさせ給ふはかりみ
きもあ時伏見源中納言師
ゐもおかをきよせ急れ召るへき
せられ御車
なとゝて
らもゝ
いゝ
る信頼
打圍み
繪即ち
て然も
違ふき
いりめ
とそか
しくするとれ勢ゐ女房女
周章ふためき泣まよふ
と今しも見るをへ目もく
はのり成り次ふも猛火
煙も巻れ公卿殿上人女房
の信西か一族ともみやと
せ軒殺すこれも恐れて殿
ゐ猛火につゐまれて泣叫
して庭の井ゐ落いゐ又
重ねて下ゐゐ水に溺ゐ
ゐ火も逃
其上に人
中なゐ
のわらは
逃迷ふ有
れ魂も絶
達に至る
て情なく
の内に入
に人
れんと
る。
暴風黒
まてか
も射伏

も射伏せ斬殺すこれぞ恐れて殿の内に入
るゑれんに人の猛火につゝまれて泣叫
に壓潰されとして庭の井よ落いるゝ又其上に人
力を重ねて下あるゝ水に溺るゝ中なるゝ
て極めて筆に摸し出せり夫より同し日
の丑の刻に信西か宿所姉ケ小路西洞院へ
押寄て同しく火をかけて燒拂ゑ畢ぬ此所
まてをこの一巻とせり扨外に今世に傳
もれる物ゝ信西入道最期の巻主上六波羅
へ行幸の巻等あり此外か尚待賢門軍の巻
六波羅合戦の巻常盤の巻とて世ゝ寫し傳
ふるものあるとも或ゝ古れ模本のみや
ありなん殊に常盤の巻ゝ同し人の傳膽ゑ
てもゝの露思はれぬ物ありゑとゝ此外ゑ尚
筆を清盛入浴の巻義朝東國落の巻なんとも必
す有しなるへりとと疾く失たるみや今ゝ
名そだゑゑ聞ゑ傳へす

此物語の繪かきたりといふ僧恵恩ゝいゝ
の世の人ふりしや慥かゑ記したまへ
ち等にみえて顯文抄にゝ畫工便覽ゑ住吉法眼
倭錦に春日隆親の二男建仁の頃住吉法眼
幼名聖壽丸攝州住吉繪所とある
しからぬよし養徳錦顯文抄ゑた夢あ等ゑ
神職永俊法眼とあり本朝畫史ゑ住吉法眼
不レ知二姓名一といふとみえ又次法橋住吉の人

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204

神職永俊法眼とあり本朝畫史ゟ住吉法眼
不レ知二姓名一と
ゐの子慶忍と
ともゟ慶恩と
恩永俊と
吉の人と
ふりといも
ふて速かに
世ゟ傳へ
とも て推測
賢く も後白
この帝へ建
藏ゟして崩
の乱きより
きと慶恩か
扨當麻曼荼羅縁起
經公へ建永
て薨せらきたり
の年則ち三
筆者慈鎮和
一歳ゟして入
十三歳の時と
筆者のうち
三日歳不知薨せ
り又栂尾の
し時上人春
曼荼羅三幅
う建し由古
ち等にみえて顯文抄にへ畫工便覧ゟ住吉
者行鏡圖ゟ
ゟ
ゟ

十三歳の時とせん不動利益縁起の詞書の筆者のうち世尊寺伊経卿ハ安貞元年正月三日歳不知薨せらるゝりこれ慶恩五十五歳なり又梅尾の明恵上人の母刀自の病篤かし時上人春日の社ゟ祈り宮曼荼羅四幅鹿曼荼羅三幅ゟ慶恩ゟ畫かしめ同社に納めらるゝし由古畫備考にみえさり上古畫ハ春秋六十を一期とし正月十九日春日の曼荼羅ゟ畫きしハ三十歳乃至四十歳ハ頃なり然るを時ハこゝろ人ゟ負永ハ過をりおそく也五十歳ハ頃なり然れハ此平治物語の詞書の筆者壬生の家隆卿ハ嘉禎三年四月九日年八十にして薨せらるゝ此時慶恩六十五歳ふまたりをれハ以上に述る所の年序はたゝかり初ふさかるへくやこれふ由りて意ふに慶恩ハ定めおたりとすれハ強ち時代違ハ相違ハある推あてあるへからすと信するふり又不動利益縁起の筆者の一人世尊寺行能卿ハ建長七年二月十一日七十七歳ゟして薨せ此時慶恩八十三歳ゟあされり夢のたゝちに光長の時代もうへにあるよしき故とあるうへに少しかゝせし證ふりもきゝとこれなとい少しかゝせしといわさゝと不動利益縁起の今一人の筆者伊経卿か薨せらるし安貞元年ハ行能卿壮年の頃ゟ、ゟ

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

き故とあるうへに光長の時代も
し證ふるといい證かふもいひかた
きさまと不動利益縁起の今一人
經卿か薨せらるし安貞元年の行
十九歳の時おもき行能卿壮年の
頃か、
たりとすれ
さかるへし
平治の乱後
りし人には
ふりきりあ
候りにこそ
う

然てまた摂津國住吉の繪所は世
て累代介の法橋といふたりしや
る、なり府下青木氏の藏過去現
第四の奥書を見るに
建長六年甲寅三月廿七日書寫畢
鈔是長入道爲二往生極樂一同是吉
也

とあるに
畫師住吉住人仏法
并
子息
知られたりかの慶

三年に二十歳と假定すれは建長
八十二歳の大老にて
聖衆九ふんといふ童名の子息の
ゑ思はれをきたる顯文抄に慶恩慶
そふ同人にあらさる歟といわ
こそ又いかゝ、ふり今一ツ推當て
恩ハ建保承久の頃と盛んに經た

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』 請求記号 亥-204

とあるに

畫師住吉住人伏

并

子

三年に二十歳と假定すれば建長六年にいの高齢なり八十有餘の大老にて聖衆丸ともいふ童名の子息聖衆丸ともいひ顯文抄に慶恩そふ同人にてありながら又いまひとつの慶忍永俊とおもはれをいあり今一川推當恩の建保の頃を盛んに經たる人ふて慶忍はその子なるへく聖衆丸聖壽丸とあるの杜撰にて則ち慶忍の幼名にて慶恩か爲にも孫なるへし尚しても慶恩の後後までも相繼やうに思はるゝは今介の法橋一枚の裏物の中ふ古き繪馬四枚の社の寶

奉懸繪馬

總領

承仕

筆者

介

寄進

天文二十二年六月日

とあり前にも引たる本朝畫史に不知姓名畫佛像介之子慶忍忍之子某皆丹青を業として天文の頃までもえたれは子孫相續きたと賞するやたしかふかに然るやたしかふかは知りかたし

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204

一枚の裏書ふ

奉懸繪馬　總領

扎者承仕

寄進　筆者介

天文二十二年六月日

とあり前にも引たる本朝畫史に

不知姓名摂洲住吉人記其畫曰

畫佛像介之子慶忍忍之子某皆

えたれは丹青を業として天文

子孫相續してありしやうに思

きとに然るやたしかふか

はるゝふり

知りかたし

国立国会図書館　タイトル『平治物語絵巻』　請求記号　亥-204